

2023 年 4 月 27 日

トヨタ紡織株式会社

2022 年度 期末決算説明会 質疑応答要旨

Q 1 : 第 4 四半期にその他の収益が増えている。一過性の要因がどれくらいあったのか教えてほしい。

A 1 : 一過性の利益として、土地の売却益が 20 億円、南アフリカの洪水による稼働停止に対する保険金など細々した収益が 15 億円、合わせて 35 億円程度発生している。第 4 四半期の営業利益 190 億円から一過性利益 35 億円を引いた 155 億円程度を実力値と見ている。

Q 2 : 2023 年度は設備投資が 820 億円と大きく増える計画になっているが内訳は何か。またキャッシュの使い道について、設備投資以外に株主還元の強化などを考えているか教えてほしい。

A 2 : 設備投資 820 億円は過去にない規模になるが、2022 年からの時期ずれ分 100 億円に加え、アイシン・シロキとのシート骨格部品事業統合で得た設備の更新など競争力の強化、カーボンニュートラル、DX など今後の成長を見据えた投資が含まれている。キャッシュの使い方としては 2022 年度の配当性向 89%と株主還元を重要なポイントと考えている。また、今後の事業拡大に向けアライアンスなど様々な投資を具体的に進めていきたいと考えている。

Q 3 : 台数前提について、3 月の国内生産はそれなりに強かったと思う。前提以上に台数が増加する可能性もあると思うが、その場合利益も増加すると考えてよいか。また車種ミックスは 2022 年度のマイナス 228 億円に対し、2023 年度はプラス 64 億円とあまり改善しない計画になっている。増産によりミックス改善効果も期待できると考えてよいか。

A 3 : トヨタの台数前提をベースに地域ごとに減産のリスクを織り込んで厳しめに計画しており、上振れの余地はあると考えている。車種ミックスについては、2022 年度の下期実績を前提として計画している。直近の内示で少し緩和されてきており、こちらも期待できるのではないかと考えている。

Q 4 : 中国地域の 2023 年度見通しについて、台数は前年から横ばいだが、利益は大きく減少している。車種 MIX 悪化や値引きの影響があるのか。

A 4 : 為替の前提レートを 2022 年度 19.8 円/元に対し、2023 年度は 18.1 円/円で計画しており、これにより営業利益で 20 億円程度マイナス影響がある。また、新車種の生産準備費用の増加、車種構成の変化なども影響している。値引き額に前年からの大きな変化はない。

Q 5 : 2023 年度の中国地域の売上収益は上期が 1200 億円、下期が 1000 億円になっている。下期に売上が減少する要因を教えてほしい。

A 5 : 中国地域の下期の稼働日が上期に比べ少ないことによる。

Q 6 : 御社のシート台数はトヨタの生産台数の 86%程度と見ている。トヨタ以外の OEM への拡販に取り組んでいると思うが、2023 年度にトヨタの台数との連動性が乖離する動きはあるか。

A 6 : 2030 年にトヨタ以外の OEM が売上に占める割合 20%を目指して取り組んでおり、その成果は少しずつ表れてきているが、2023 年度に比率の大きな変化はない。

Q 7 : 2023 年度のアジア・オセアニア地域はシートが 12%増加する一方、営業利益は実質ベースで 20 億円の減益となっている。台数が伸びても利益が伸びない理由を教えてください。

A 7 : 理由は二つあり、一つは為替レートの差によるもの。2022 年度はタイバーツ 3.84 円/バーツに対し、2023 年度は 3.60 円/バーツで計画している。もう一つは設備の予防保全経費の積み増しによるもの。

Q 8 : アイシン・シロキからの骨格部品の事業譲受による収益性の改善効果はいつ頃見えてくるのか。

A 8 : 2023 年度は年間を通じて日本地域の業績に含まれている。それに伴い経費、減価償却などが増えているように見えるが、売上も増えている。820 億円の設備投資の中で工場の再編や生産レイアウトの最適化などを行い、更にシナジー効果を上げていく。また、今後は海外の事業譲受を進めていく。

Q 9 : 台数前提が保守的に見える。何か具体的なリスクが目の前にあったのか、計画の背景を説明してほしい。また台数が 100 万台くらい上振れる可能性もあると思う。その場合にコスト面、人員面などで対応が可能かどうか教えてください。

A 9 : 台数前提はトヨタの計画をベースに国・地域ごと、車種モデルごとにヒアリングをして、最大リスクをみて計画している。上振れに対して、当社の内製工場はグローバルで生産能力の確認はできている。サプライチェーンの中で人員の確保等が難しいところもあるので、トヨタから早く情報を入手し、サプライチェーン全体で増産対応に向かっている体制を整えていきたいと考えている。

Q 10 : 2026 年に向けてトヨタが新しい EV プラットフォームを起こすと聞いたが、それに対応したシートの変化があれば紹介してほしい。またモーターコアについてもトヨタの EV 戦略に関連して御社のオポチュニティーになるような動きがあれば教えてください。

A 10 : EV に関する様々な取り組みをトヨタと行っている。シートの構造も含めて大きく変わる余地があるので、新しい EV プラットフォームに対応し、最終の市場のお客様に満足いただけるような提案を行っていく。モーターコアは、先般発表されたノア・ヴォクシー、シエンタ、プリウスにも採用いただいている。また我々の技術については、トヨタ以外の OEM からも興味を持っていただいているので、最終的な生産につながるような拡販活動をしていく。

以上